

全国学力・学習状況調査について

広島市立舟入小学校
校長 花本 和彦

全国の小学校6年生を対象にした、全国学力・学習状況調査が4月17日に実施され、その結果が先日公表されました。本校は、文部科学省より、調査対象として抽出はされておりませんが、調査結果から、定着状況と課題を分析しましたので、ご報告致します。

24年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の実施日 平成24年4月17日（火）

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）※理科はA・Bを一体的に出題

主として知識に関する問題〔A問題〕

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題〔B問題〕

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 各教科の平均正答率【小学校】

国語						算数						理科		
A問題			B問題			A問題			B問題					
国	県	舟入	国	県	舟入	国	県	舟入	国	県	舟入	国	県	舟入
81.6	83.6	84.3	55.6	58.1	56.2	73.3	75.4	78.7	58.9	60.5	62.5	60.9	62.9	66.2

5 各教科の調査結果の概要【小学校国語】

国語A

【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	舟入小
話すこと・聞くこと	79.4	81.6	81
書くこと	57.5	62.6	67
読むこと	82.1	84.0	86
言語事項	86.3	87.9	88

国語B

【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	舟入小
話すこと・聞くこと	63.0	65.8	55
書くこと	46.8	50.1	43
読むこと	55.7	57.5	59
言語事項	55.2	60.6	71

定着状況

- 説明文・物語・新聞や雑誌の記事などを読んで、適切に内容を読み取ることができています。
- 漢字の読み書きや敬語の使い方といった言語事項は、よく定着しています。

課題

- 資料を読み取った上で質問を的確にするといった問題の正答率が低いです。
- 手紙の構成を理解し、後付けを書く力がまだ定着していないようです。
- Bの正答率が低く、長文をしっかりと読んで適切な質問をしたり、自分の考えを述べたりする力が充分ついていないようです。

具体的方策

- 説明的な文章や物語文の読み取りの中で、要点をまとめる時間を計画的にもちたいと思います。また、新聞や読んだ本の紹介などの時間を設け、それを読んだり聞いたりして質問をするといった活動を仕組んでいきます。
- 季節の挨拶や礼状等、手紙を書く機会を書写や国語、総合的な学習の時間などの中で増やしていきます。

【小学校算数】

算数A

【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	舟入小
数と計算	75.0	76.1	80
量と測定	71.7	74.0	77
図形	72.6	76.5	79
数量関係	74.4	77.9	79

算数B

【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	舟入小
数と計算	54.0	55.2	58
量と測定	60.8	62.2	65
図形	63.3	65.1	68
数量関係	49.5	51.9	49

定着状況

- B問題の数量関係以外で、A問題・B問題とも全国・本県の平均正答率を上回っており、全体的に基礎学力は、ほぼ定着していると言えます。
- 最後まで解答を導き出そうと努力しており、ほとんどの児童は算数への意欲関心が高いと言えます。

課題

- はかりを適切に読み取り、与えられた条件を基に筋道を立てて考える力が弱く、手が出ず無解答に終わる児童が多くなっています。
- 知識を基に、それを活用して解く力が弱いため、B問題の数量関係の領域の無解答率が高くなっています。

具体的方策

- 言葉・数・式・図・表・グラフなどを有効に活用し、筋道立てて問題解決をさせていきます。
- 考えた事柄に、理由をつけて順序立てて説明する言語活動を、授業の中に取り入れていきます。考えた道筋をノートに書き残し、説明や考えの整理に生かすことができるよう学習を進めていきます。

【小学校理科】

理科

【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	舟入小
物質	61.4	63.0	66
エネルギー	59.8	62.5	70
生命	68.6	70.3	73
地球	50.6	52.5	54

定着状況

- 物は形が変わっても重さは変わらないことや、光電池や乾電池の働きを強くする要因など、実験を通して得た知識はよく定着しています。
- データをもとに他の地域の植物の成長を類推することができています。観察を通して体験したことはよく定着しており、それを活用することができています。
- 方位磁針の名称や受粉などの理科的な用語はよく身につけています。

課題

- 太陽の位置が南にあることと、方位磁針の向きを合わせるという2つの条件を考慮して方位磁針の正しい活用の仕方を選ぶという設問の誤解答が大変多かったです。
- グラフと自然の事象を結び付けて考える力が定着していないようです。
- 科学的な言葉や概念を使用して考察し、文章に記述することが難しいようです。

具体的方策

- 理科の授業では、できるだけ体験的な学習を増やし、その際、実生活の具体的な場面と結びつけて指導するようにしていきます。
- 観察したり、実験したりする際は、キーワードやポイントとなる事象などを示し、言葉や文章で記録する機会を増やしていきます。

6 学力向上へ向けた全校的な取り組み

- 「話す・聞く・書く」領域の力をつけるため、国語科を中心に、言語活動を充実させていきます。また、各教科で自分の考えを文章に表す活動を増やしていきます。
- 自分の考えを、根拠をはっきりさせたり、具体的に相手を意識したりして論理的に説明できるように、学年に応じた取り組みをしていきます。
- 自然の事象に目を向けるような働きかけを積極的にし、実際に見たり触ったり動かしたりできるような体験的な学習をできるだけ取り入れていきます。
- 今後も家庭学習の大切さを唱え、家庭と連携して家庭学習の充実を図ります。